



ネットワーク 通信 No.18

◆2024年度 交流会のご報告 (Zoomによるオンライン開催)◆

日 程：7月16日(火) 13:30~16:00

(Zoomによるオンライン形式)

参加者：27名(「ネットワークみやぎ」に加入の21団体から)

* 吉田代表挨拶 * がん患者会サロンネットワークみやぎは今年10月に10周年を迎えます。加盟団体も今年度は31団体になりました。今年コアメンバーが変更になりました。「がん哲学外来仙台チャウチャウ会」佐藤まどかさんから「りんりの会(こころん)」の佐藤麻希さんです。よろしくお願いします。

* 第1部 「がんサロンネットワークみやぎの活動報告と計画」説明

* 第2部 「第4期宮城県がん対策推進計画について」~がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社旗の構築

宮城県保健福祉部健康推進課がん・循環器病対策班 班長小野寺保氏

推進計画について内容の説明、解説を頂きました。概要の要点は以下の3つです。

全体を通して様々なデータが示してくださり、とてもわかりやすいお話でした。どの目標にも計画の評価(ロジックモデル)が示され目標だけでなく実行していくこと、中身を伴う計画書と感じました。冊子は県民目線で読みやすく作成することを心掛けたとのことです。ホームページから印刷もできます。ご興味ある方は、秋の夜長、ぜひご一読ください。

1. 患者会活動の充実ピアサポートの普及

がん診療拠点病院の指定要件に「ピアサポーターを活用、患者団体等との連携」が明記されています。しかし国立がんセンターによる「患者体験調査」の結果では、ピアサポートの認知度が低く、利用も少ないことがわかりました。同調査でピアサポートを利用した方の7割が役に立ったと評価は高いです。県ではピアサポートの認知度を上げ、活用した患者さん等の割合を上昇させることを目標にしています。

2. がん教育

小中高校で「がん教育」が行われるようになりましたが、文科省は外部講師の活用を求めています。しかし宮城県の外部講師活用率は全国ワースト2位です。全国的に活用された外部講師の職種は「がん体験者」が最も多くなっています。県としては外部講師派遣のため、県・学校・教育委員会・拠点病院で情報共有できる仕組みを検討しています。

3. 拠点病院に準ずるがん診療を病院の県独自指定

宮城県はがん拠点病院以外でがん治療をする患者さんの割合が高く、特に仙台圏では63.2%ががん拠点病院以外で治療をしています。がん拠点病院と同質の標準治療を実施するため、一定の要件を満たした病院とがん拠点病院が連携していく仕組み作りをしています。

* 第3部 グループワーク*

5~6名ずつの4グループにわかれてグループワークを行い、各団体の活動状況について情報交換を行いました。講演会の余韻も残り、がん教育への話題が多く時間が足りず、今後の活動へ向けて大きな励みになりました。

* 参加者アンケートより*

第2部の話題提供がとてもわかりやすく、身近に感じられ患者に寄り添った計画と感じた方が多かったようです。ピアサポートの認知数や利用数、がん教育の外部講師活用率の低さに驚いたとの感想も多くあり、今後の自団体での活動への課題と受け止めている感想も多くありました。ピアサポーターやがん教育でがんサバイバーの活躍の幅や場が広がっていく可能性をみなさん感じたようです。

第3部グループワークでは、他団体の活動状況、課題を知ることができて有意義な交流会だったとの感想が多く寄せられました。オンライン交流から対面での交流の再開を期待する声が多く寄せられていました。また、がん教育の準備、手弁当での活動から補助金や報酬と言った提案、患者会などの学会発表の機会など踏み込んだ意見もありました。

アンケート結果からは満足度の高い交流会となりました。

